



日本科学者会議（JSA）公開講演会

「淀川水系の治水とダム計画の問題」

2009年3月31日、国土交通省近畿地方整備局が国民の世論や大阪、京都、滋賀の3知事の一致した意見表明に押されて、滋賀県の大戸川ダムの凍結を打ち出しましたが、その後嘉田滋賀県知事が記者会見で批判したように、大户川ダムは依然復活の余地を残しており、近畿地方整備局だけで年間1兆円近い予算を確保して地方には回さないなど、不合理な状況は改善されていません。

そこでダム問題に詳しい国土問題研究会の上野先生に、「淀川水系の治水とダム計画の問題」についてどのように考えればよいのかを、県や各自治体の関係する方だけでなく、関心をお持ちの県民の皆さんにもわかりやすくお話いただくことになりました。なお、ご講演の後に皆さんによる討議の時間を確保して、河川管理のあり方についての理解を深めたいと思います。また講演会の後、駅の近くで講師の上野先生を囲んで懇親会を行い、意見交換を行う予定ですので、どなたでも自由にご参加ください。（新型インフルエンザで当初予定していた会場が使用禁止となったため、改めて下記の日時で開催することになりました。なお会場が変更されたのでご注意下さい。）

テーマ：「淀川水系の治水とダム計画の問題」

講 師：国土問題研究会副理事長

上野 鉄男（うえの てつお）さん

講演者のプロフィール

1969～2007年 京都大学防災研究所で洪水災害と治水対策の研究に従事

現在、国土問題研究会副理事長、日本科学者会議事務局次長

日 時：2009年7月18日（土）午後2時30分～4時30分

場 所：コミセンやす大ホール（野洲市役所横、JR野洲駅南口徒歩5分）

参加費：無料

問合せ先：小 島 彬（日本科学者会議滋賀支部事務局長）

Tel, Fax：077-589-3724、e-mail：akrkojima@ybb.ne.jp

上野先生から

私は 1995 年頃から全国の多くのダム建設の問題について調査する機会を得ました。調査を進めるうちに、その問題の背景には治水計画や治水方式に関して、基本的な問題があることがわかってきました。ここでは、調査を通じて得られた知見に基づいて、淀川水系の治水とダム計画の問題についてお話しします。

まず、淀川の治水計画の変遷と、治水計画において重要な意味を持つ淀川の基本高水流量の決定方法について説明します。河川の基本高水流量の問題は難しいかもしれませんが、できるだけわかりやすく説明しますので、意欲のある方は頑張ってこれを理解していただきますと、ダムの問題がよくわかるようになります。理解が難しい方は重要な結論だけをしっかりと頭に入れていただきますと、全体の問題がわかります。

次に、淀川の治水計画において過大な基本高水流量が採用されている問題に関して、1) 1971 年の改定前後の淀川工事実施基本計画の比較、2) カバー率の採用に関する問題、3) 「淀川水系河川整備基本方針」における基本高水流量に関する問題について説明し、4) 過大な基本高水流量の採用がダム建設に結びついているという全国の実態についてお話しします。

また、1997 年の河川法改正とその後の治水事業の動向に関して、1) 河川法改正のうち治水に関する主要内容について説明し、2) 全国の一級河川 109 水系における河川整備基本方針の策定とそこで採用された基本高水流量の実態について、3) それらの内の 43 水系における河川整備計画の策定とそこで設定された整備計画目標流量の実態について、4) まとめとして、それらの結果を総合するとどのようなことが言えるのかについてお話しします。

さらに、淀川水系河川整備計画に関して、1) それが全国の他の水系の河川整備計画とは全く異なる内容を持ち、問題が大きいものであること、2) 淀川水系河川整備計画の策定過程においても大きな問題があること、3) 淀川の治水計画においては、治水目標は粗く設定し、対策は極めて細かいものになっており、そのことは「ダムを造るための辻褃合わせの計画」と言えるものであることについて説明します。

最後に、淀川水系の治水対策に関して、1) 淀川水系河川整備計画に関して 2008 年 10 月に提出された淀川水系流域委員会の意見書の概要について説明し、2) 国土問題研究会での議論を踏まえた私の考えについてお話しします。

日本科学者会議 (JSA, The Japan Scientists Association) について

科学・技術を総合的に発展させ、その成果を平和と国民福祉の向上に役立てる科学者の責任を果たすため、専門別、地域別の枠や、世界観や研究方法の違いをこえた組織として、1965 年に創立されました。全国的に問題となった 60 年代、70 年代の公害問題では、先駆的かつ一貫して国民の立場に立って実態を明らかにし、その解決にむけ努力してきました。また核兵器に代表される科学の反社会的な利用に反対し、国内外の平和・独立・民主主義・社会進歩・生活向上のための諸活動との連帯を強めて取り組んできており、研究者・教育者・技術者・弁護士・医師・大学院生など、現在約 5 千人の会員を擁しています。なおノーベル物理学賞を受賞した益川敏英さんも、古くからの会員です。(URL <http://www.jsa.gr.jp>)